

総合戦略における施策の目標値設定根拠

○基本目標 1 自分のくらす地域を好きになる

基本的な施策の方向	目標値	設定根拠
① 地域への愛着が育つ	市に愛着を持っている人の割合（市民意識調査） 54%（H27）⇒70%（H31）	愛着を持っている・持っていないのかどちらともいえない人の割合 29%の約半数を「愛着を持っている」への移行を目指す。
② 自慢できる地域力の構築	行政区（自治会）加入世帯割合 84%（H27）⇒現状以上（H31）	目標値算出根拠（数値は H27. 4. 1 現在） 区長回覧世帯数 16,440／住民基本台帳人口（世帯数）19,612 人＝83.8%
	地域行事への参加経験の割合（市民意識調査） 74%（H27）⇒80%（H31）	何かしらの行事に参加している割合「道路・側溝等の清掃」、「地域の盆踊りや祭礼」など、74%を 80%まで移行を目指す。 H27 アンケート実績 回答数 689 人 有効回答 512 人
③ 高齢者や障がい者が地域で元気に暮らす	認知症サポーター養成講座累計受講者数 835 人（H27）⇒3,000 人（H31）	基本的施策の方向にある「地域全体で安否確認などの見守りに取り組む」地域の実現を目標とし、その実現を計るため、高齢者を支える人が対象となる目標値を設定。
④ 地域ぐるみの防災、防犯体制の促進	防災訓練実施地域団体数 15 団体/年 自主防災組織設置数 56（H27）⇒70（H31） 消防団員定員充足率 91%（H27）⇒現状維持（H31）	基本的施策の方向では「地域ぐるみの防災」と掲げ、地域防災力の向上に効果的な事業に取り組む。その結果として、地域の防災意識向上、地域の自発的な取り組みを誘発することができたのかを計るため、3項目の目標値を設定。

○基本目標2 くらしやすく、移住しやすい環境づくり

基本的な施策の方向	目標値	設定根拠
① 交通利便性を高める	公共交通網の整備に満足している人の割合（市民意識調査）14%（H27）⇒25%（H31）	公共交通網の整備に満足・不満足のどちらともいえない人の割合 11%を満足への移行を目指す。
② 住環境の整備	住む場所に満足している人の割合（市民意識調査）56%（H27）⇒60%（H31）	住む場所に満足・不満足のどちらともいえない人の割合 6%の約半数を満足への以降を目指す。
③ 移住者受け入れの環境整備	移住相談件数 13件（H26）⇒100件（H31）	移住は他自治体との競争となるため、館山市の移住相談件数の目標値 200件（基準値 141件）を参考に検討。館山市と異なり官民が連携した移住支援体制が未整備のため、50%の 100件を目標値として設定。
	行政区（自治会）加入世帯割合 84%（H27）⇒現状以上（H31）【再掲】	区長回覧世帯数 16,440／住民基本台帳人口（世帯数）19,612人＝83.8%【再掲】
④ 生活環境の保全	1人あたり1日のごみ排出量 1,060g（H27）⇒960g（H31）	現在の排出量の約1割削減を目指す。
	ゴミゼロ運動参加人数 12,000人（H27）⇒13,000人（H31）	現参加人数のおおよそ1割増とする。最終目標値は1世帯1人の参加を目指しているので、その過程として1割増を設定。

○基本目標3 子どもの笑顔があふれるまちへ

基本的な施策の方向	目標値	設定根拠
① 出会いの場を創出し、結婚の希望をかなえる	婚姻件数（千葉県健康福祉指導課「人口動態調査」）162件（H26）⇒現状以上（H31）	若年層人口の減少が見込まれることから、婚姻率が上昇しなければ婚姻件数は減少することとなるが、出会いの場を創出し婚姻件数の現状以

基本的な施策の方向	目標値	設定根拠
② 出産、子育てしやすい環境の整備	子育て支援の満足度(子ども・子育て支援事業計画策定に伴う子育て世帯ニーズ調査) 7%(H25)⇒30%(H30)	上を目指す。 ①近隣市との子育て世帯の満足度の差が若年層の転出の一つの要因であると考え、これを抑制するため、近隣市の子育て世帯ニーズ調査における平均値としている。
	「イクトモ」ホームページの閲覧回数 8,032回(H26)⇒1万回(H31)	新たな子育て支援を実施し、イクトモの周知や内容充実を通じて子育て世帯に情報発信することで25%の閲覧増としている。
	ワークショップにより改善、充実した場の数 0箇所(H27)⇒2箇所(H31)	子どもが集まる場所が多すぎると、利用者が分散してしまいコミュニティ形成効果が減少するため、集中的に2箇所を改善、充実させることとしている。
	子ども 110 番の家 378 軒(H27)⇒現状以上(H31)	現状多くの市民に協力をいただいているが、地域の子どもの数が少なくなった、高齢のためなど協力者から、辞退の声もある中で、防犯に関する地域の駆け込み避難場所として、現状の協力数以上の確保を目標としている。
③ のびのび学ぶ教育環境の整備	自分の地域の良さが回答できる子どもの割合(子どもへのアンケート調査) ⇒70%(H31)	子どもの学力向上だけでなく、地域の良さを伝えることで、子どもの地域への関心を高め、地域活動への参加、将来的な地域の担い手の育成につながる。市民意識調査において、「富津市に誇りや愛着を持っていますか。」という設問について、53.6%の人が「はっきりと」又は「漠然と」持っていると回答しており、子どもに限定した調査において約10%増加を目指す。

基本的な施策の方向	目標値	設定根拠
	子どもが確かな学力を身につけるための取組に対する保護者の肯定的な評価の割合（保護者へのアンケート調査） ⇒60%（H31）	H27 時点では、市内小中学校における統一的な調査は行われていないが、第3次基本計画策定の際の市民アンケート（H21 実施）では、「学校教育の充実」について、「満足」及び「やや満足」の肯定的な回答率の合計は30%であり、倍増を目指す。

○基本目標4 市の産業、仕事を創る

基本的な施策の方向	目標値	設定根拠
① 雇用の創出	市内で働く人の数（市内事業所従業者数：経済センサス活動調査） 17,080 人（H24）⇒現状以上（H28）	人口減少に伴い従業者数も減少が考えられるところではあるが、減少率の算定も難しいため現状以上と設定。
② 地場産業の振興	ふるさとふつつ応援寄附額 1,052 万円（H26） ⇒5 億円（H31）	勝浦市では H27 年度 1 億円、大多喜町では H27 上期で 2 億円以上、全国でも数億円の寄付を受けている自治体もあり、それらを参考に設定。
	認定新規就農者数 1 人（H27）⇒5 人（H31）	1 人/年の増として設定。
	再生された耕作放棄地の累計面積 48a（H27）⇒300a（H31）	48a（H27）を基に 3 割増（約 60a）/年以上として設定。
	漁業経営体数（漁業センサス） 400（H25）⇒現状維持（H31）	人口減少に伴い漁業経営体数も減少が考えられるところではあるが、減少率の算定も難しいため現状以上と設定。
③ 観光の振興	観光客入込数 2,146 千人（H26）⇒2,800 千人（H31）	直近数年間のうち、最も観光客入込数の多かった平成 21 年度の約 2,800 千人と設定。